

こちよく、自分らしく、毎日を。

MediCure News

メディキュア ニュース

2020
vol. 7

特別号



湘南記念病院が取り組む 乳がん患者を支える チーム医療

湘南記念病院 土井卓子医師 インタビュー



衣料医療

肌着が衣料ではなく、肌や心をいたわる衣療となるように。
それが、私たちの願いです。

明日をもっと、こちよく

GUNZE

湘南記念病院が取り組む

乳がん患者を支える チーム医療

湘南記念病院 土井卓子医師 インタビュー

土井

卓子(どい たかこ)医師がセンター長を務める、湘南記念病院の乳がんセンターでは、乳腺外科医のほか腫瘍内科医、病理検査師、管理栄養士、看護師、放射線技師、エコー技師、薬剤師、そして患者を支えるピアサポーター(乳がんを体験した相談員)やカウンセラーを加えたチームで乳がん治療にあたっている。

2009年の開設当初は乳腺外科専門医の土井医師、放射線技師、薬剤師それぞれ1名であったが、10年後の今、医師は5名体制となり、オペは年間400例ほど行われるようになっている。

1 患者を不安にさせない、一緒に戦う気持ちを持ってもらう。

土井医師「毎日多くの患者さんと接する中で、ガンを告知する場面は少なくありません。『あなたは、ガンです』と告知をされた患者さんの反応は様々で、診察室で泣き崩れてしまう人、自暴自棄になってしまう人などもあります。しかしこのとき私達がこの患者さんのパニック状態を放置したまま帰してしまうと、その方は自らの治療に自信を持てないまま迷走してしまいます。

例えば、ガンの告知にショックを受けた患者さんが、必要な説明をしている途中で部屋を出てしまった場合、当センターではまず、看護師が追いかけて落ち着くまで付添います。場合によってはピアサポーターがいる相談室に連れていきバトンタッチをします。患者さんの気持ちが落ち着いたところで、もう一度診察室に戻ってもらい説明を続けます。ここでいうピアサポーターとは、自身も乳がん体験者であり、その経験を活かして患者さんの気持ちにより添い、その人に合わせてアドバイスをを行う相談員です。」

以前は乳がんになると乳房を広範囲で切除する選択しかなく、手術となると2か月の入院。抗がん剤も再発してからの投与だった。しかし、いまは手術込で短くて3泊4日の入院。抗がん剤、放射線治療も通院しながら行う。手術も切除を最小範囲にとどめ、再建もできる。また抗がん剤も何十種類もあり、ホルモン剤も常に新しいも

のが販売されている。これらをも、いまやガンは普通に生活しながら治療するものになっている。

土井医師「いまは、いろんな治療法が選択できます。しかし患者さんは、どう選んでいいのかわからない。私は患者さんに納得して治療を受けてもらうために、ものすごく時間をかけます。1度の説明でだめなら、2度でも3度でも話し合い、患者さんから『手術を受けたい』と言ってもらわない限り手術はしません。ときには患者さんを厳しく叱ることもあります。そんなとき、患者さんに対するフォローを阿吽の呼吸で看護師がやってくれます。それが判っているから、私は患者さんに厳しいこともいえます。これらの一連の動きは医師から指示されて行っているのではなく、スタッフ自ら考え動いています。そのほかの職種でも、抗がん剤治療の決定に欠かせない薬剤師、画像診断に欠かせない放射線技師など、すべてのスタッフが主体的に活躍しています。」



待合室に併設された情報資料室。乳がん関連の書籍など多数設置されており、自由に閲覧できる。

「スタッフは常に“私達が患者さんに対してできること”を考えながら日々の業務にあたっています。『言葉に勇気づけられた』『診断にショックを受けて泣く私の側にただ座ってくれている、それだけで安心できた』『こんな下着があるよと勧めてくれて、とても助かった』など、私は患者さんから聞いた感謝の気持ちを看護師に必ず伝えます。患者さんからの感謝の気持ちは、スタッフのやる気を後押ししてくれ

ます。例えば乳がんセンター師長がリンパケアセラピストの資格を取ってきてくれたり、看護師がリハビリを学んできてくれたり、眉毛のタトゥーの講習に行ってくれたり、術後のボディケアのための体操を覚えてきてくれたりと、気づけばみんなが自主的に患者さんのために動いてくれるようになっていました。」

2 必要なのは人の役に立てて嬉しいという気持ち。

センターのチームには、医師、看護師、放射線技師、栄養士など医療系のスタッフの他にピアサポーター、心理カウンセラーなど患者のメンタルを支えるスタッフもいる。ピアサポーターのピアは英語の『Peer』で同じ様な立場にある仲間という意味を持つ。同じ体験をした者同士が語り合うことで回復を目指す仲間を意味している。

土井医師「センターのピアサポーターは乳がん体験者で、乳がん体験者コーディネーター(BEC)の講義を受講し資格を持っています。また、一部の看護師や心理カウンセラーも乳がん体験者です。患者と共有の体験を持つスタッフがチームの中にいると、体験者でないスタッフも患者さんの気持ちに寄り添える情報を共有できます。そしてスタッフ全員“患者さんのために次は何をしよう”というチーム力がパワーアップします。」

そんなスタッフの『患者さんのために役に立ちたい』という思いがこもった新たな場所がセンターの一角にできた。乳がん患者のためのセルフケア製品を展示するケアルームだ。乳がんだからベージュの下着を身に着けないといけないの？乳がんだからこそ、自分のカラダも心も応援してくれるワクワクする下着を身に着けたい。そんな患者の気持ちに応え、ここには各メーカーの下着も展示され、手に取ることができる。また看護師とともに自身の症状に合わせた下着を選び、試着することもできる。通院治療に役に立つものや、気に入った下着など、購入したいという患者には店の案内を手渡してくれる。

土井医師「ほんとうに診察室の一角の狭い場所ですが、センターの看護師達がおしゃれなハンガーに下着をディスプレイしたり、ウォールステッカーを壁に貼って居心地の良い工夫をしたりと、下着を販売されているグンゼさんにもディスプレイの方法などのアドバイスをいただきながら、患者さんが目をキラキラ、心をワクワクしてケア製品を手にとったり、下着を試着できるケアルームをつくってくれました。」



下着フィッティングルーム。室内は落ち着いた色調になっている。看護師たちが選んだハンガーにも、患者さまへの配慮がみえる。



3 気持ちを通わせる、一冊の手帳。

土井医師「すべては患者さんのため。なによりも患者さんとのコミュニケーションレスが一番のリスクとなります。それを減らすために当センターではピンクリボン手帳というものを持っています。診察の所見や画層検査、手術後の生活、治療計画など、電子カルテに記載している内容を診察の度に転記しています。また、不安な気持ちや疑問に思ったことなどを患者さん自身で書き込める『私のページ』があります。もしスタッフに読んでもらいたいページがあれば自由に書いてもらい、スタッフから返答するという、交換日記的な役割も果たしてくれています。」

治療は医師、患者が双方向で納得し進めないとよい結果はできません。ピアサポーターがいる相談室、ケアルーム、ピンクリボン手帳もそのためのひとつのツールです。しかし、そのツール一つひとつに看護師をはじめとする乳がんセンターのスタッフ全員の思いが込められていて、総力戦で、患者さんと一緒に泣いて、笑って乳がんの治療に邁進しています。」



ピンクリボン手帳。患者とのコミュニケーションレスを避けるためのツールとして活用されている。



土井卓子 医師略歴
どいたかこ

横浜市立大学医学部卒業、横浜市立大学医学部付属病院で研修後、済生会横浜市南部病院、独立行政法人国立病院機構横浜医療センターなどを経て2009年よりかまくら乳がんセンターを立ち上げる。

医師として一貫して乳腺外科分野で経験を積み、女性の立場から女性のための乳がん治療及び乳腺分野での治療に従事。湘南記念病院乳がんセンター長として、医師、看護師だけでなく、薬剤師、体験者コーディネーターやリンパ浮腫ケアスタッフを組み込んだ乳がん治療チームの組織、また形成外科と連携した乳房再建などの総合的な乳腺治療をめざす。横浜市立大学医学部臨床教授、日本外科学会専門医、日本外科学会指導医、日本消化器外科学会認定医、日本消化器病学会専門医、乳腺専門医、マンモグラフィ読影認定医、ICD



日本乳癌学会専門医制度認定施設

湘南記念病院乳がんセンター



医療法人 湘和会 湘南記念病院 乳がんセンター
〒248-0027 鎌倉市笛田 2-2-60
フリーダイヤル 0120-707-217
<受付時間>8:30~16:30(日曜・祝日・休診日を除く)
http://www.syonankinenhp.or.jp/nyugan



明日をもっと、こころよく
GUNZE

衣料 から 衣療 へ。

MediCure
メディキュア

衣料 アパレル 肌着が衣料ではなく、
医療 メディカル 肌や心をいたわる衣療となるように。
それが、私たちの願いです。

メディキュア アイテム一覧



低刺激インナー



アーム・レッグカバー



ネックカバー



サポートキャップ



前開きハーフトップ



ハイウエストショーツ



カッティングチューブ



ボクサーブリーフ(尿吸水パッド対応)



商品について、より詳しい内容は
インターネット

グンゼ メディキュア



「メディキュア」ブランドサイト
https://www.medicure-gunze.com/



グンゼ株式会社 お客様相談室 ☎ 0120-167874 <受付時間>月~金 9:30 ~ 17:00(土日祝日、年末年始などの休暇を除く) https://www.gunze.co.jp/support/

●商品の色は、印刷上、実際の商品と多少異なる場合がありますのでご了承下さい。●改良のため予告なく仕様を変更することがありますのでご了承ください。●2020年2月発行